

6月穫りに適する小玉スイカの有望品種「姫甘泉」		
<p>[要約] 6月に収穫する小玉スイカの二番果は、収量は多いものの一番果と比べると品質が劣る。この時期に収穫する一番果は糖度および果肉硬度等の品質が優れ、とくに「姫甘泉」の適用性が大きい。2月中旬に播種し、4月中旬に株間を60cmと広くとって定植する。</p>		
農業総合センター園芸研究所	成果区分	技術参考

1. 背景・ねらい

本県の小玉スイカは一番果を4月から5月中旬まで収穫し、その後6月まで二番果を収穫するのが一般的となっている。二番果はミツバチ受粉とすることや成熟期の天候不順等により、品質が著しく劣る。

そこで、二番果まで収穫する栽培に代わり、一番果を6月に収穫する作型を確立するため、品種の適用性および栽培管理方法について検討した。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「姫甘泉」は4月および5月収穫では、早生種である「サマーキッズ」等よりも受粉日が遅い。品種にかかわらず、遅い作型ほど成熟日数は少なくなるが、6月穫りでも「姫甘泉」は他に比べて3～6日多くなる。「姫甘泉」の一果重は「ひとりじめ」や「紅こだま」よりやや小さい(表1)。
- 2) 遅い作型ほど「姫甘泉」の糖度は高く、いずれも11.0%を上回る。また、各品種とも遅い作型ほど果肉硬度は小さくなるが、「姫甘泉」は6月収穫でも0.8kg/ft以上と他の品種より著しく高い(図1)。
- 3) 「姫甘泉」は外観、シャリ感および果肉の硬さにおいて優れる(図2)。
- 4) 一番果6月穫りの作型における株間は、40cmでは60cmよりも一果重は小さいものの収量は多く、一番果を5月に収穫した後の二番果よりは大果となり、収量も多い。株間を60cmにすると収量は劣るが、1果重が大きく、糖度および果肉硬度等の品質が優れる(表2)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 「姫甘泉」は中晩生種であるため、4月および5月収穫では早生種よりも収穫が著しく遅くなるが、6月収穫では差は3～6日程度と少なくなる。
- 2) 「姫甘泉」は6月中旬収穫での成熟日数は35日程度で、積算温度は880℃程度となる。これらを参考に適熟果の収穫に努める。
- 3) 一番果6月穫り栽培は収量が少なく、ハウス利用効率も劣るので、トンネル栽培および「4月穫り・改植栽培」等の実用性を検討する必要がある。

4. 具体的データ

表1 小玉スイカの作型と生育・収量 (2003年)

作型	品種	受粉日 (月/日)	着果節位 (節)	成熟日数 ¹⁾ (日)	一果重 (g)	果形比 ²⁾	収量 (kg/10a)
4月収穫	姫甘泉	3/10	17.1	42.0	2275	0.97	1616
	紅こだま	3/7	18.9	37.1	2483	1.06	1874
5月収穫	姫甘泉	4/11	18.3	37.6	2201	1.00	3157
	紅こだま	4/6	22.5	34.8	2490	1.06	3571
6月収穫	ひとりじめ	5/4	16.7	29.2	2517	1.11	3609
	姫甘泉	5/4	16.9	35.2	2136	1.12	3063
	サマーキッズ	5/2	20.2	32.2	2394	1.14	3433
	紅こだま	5/4	19.3	29.2	2381	1.17	3415

1) 成熟日数：成熟は果皮と果肉の境界が鮮明となったとき

2) 果形比：果高/果径

※栽植本数 (株/10a) 4月収穫：220 5月収穫、6月収穫：740

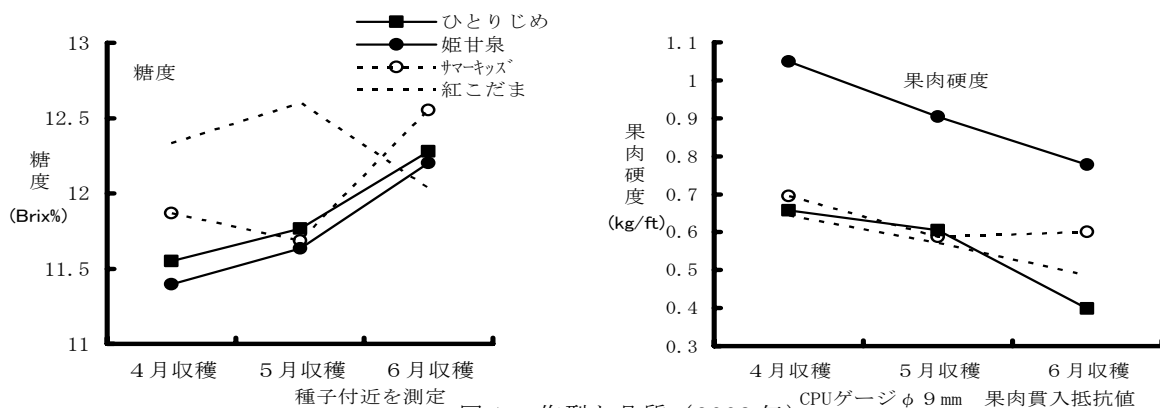


図1 作型と品質 (2003年)

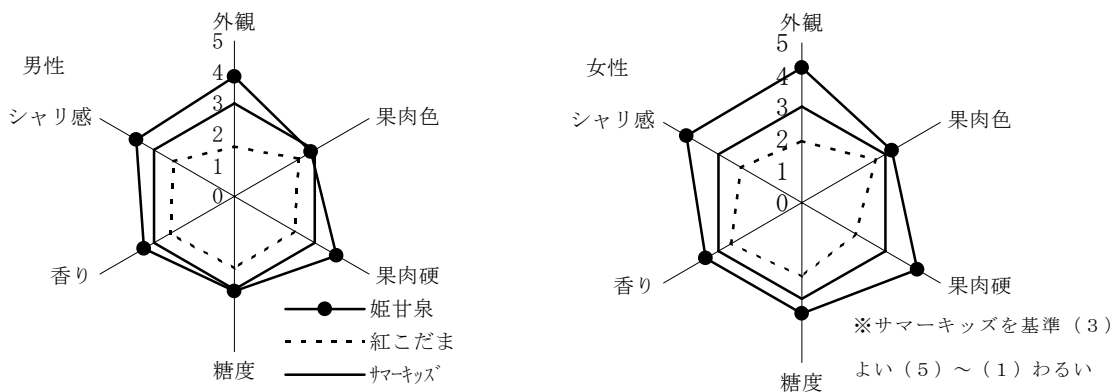


図2 6月収穫一番果の官能評価 (2003年)

表2 株間、作型および品種と収量・品質 (2004年)

収穫期	株間	重量 (g)	L級 ¹⁾ 果率 (%)	果形比 ²⁾	果肉率 (%)	糖度 (Brix%)	果肉硬度 (kg/ft)	収量 (kg/10a)
5月	一番果	2104	100	1.12	72.7	11.7	0.97	3117
	二番果	1546	46.2	1.10	93.2	10.3	0.80	3719
6月	40cm	2086	87.5	1.29	91.5	11.0	0.77	4631
	60cm	2396	100	1.23	92.3	11.6	0.88	3546

1) L級：1700 g 以上2100 g 未満の果実 (茨城県青果物出荷規格)

2) 果形比：果高/果径

5. 試験課題名・研究期間・担当研究室

果菜類における作期拡大と省力的栽培管理技術の確立・2003～2005年度・野菜研究室